

令和5年度 箕面市行政視察報告書

(議会運営委員会)

1 日程

令和5年5月9日(火)～ 5月10日(水)

2 視察先

(1) 東京都町田市 (町田市議会)

視察項目	議案のカルテ、高校生との意見交換会について
視察目的	開かれた市議会の事例として、議案のカルテや高校生徒の意見交換会を視察し本市議会における開かれた議会の取り組みの一助とする。

(2) 千葉県柏市

視察項目	大型スクリーン、採決システム、オンライン委員会
視察目的	市議会のICT化の事例として、大型スクリーンや採決システムやオンライン委員会を視察し、本市議会でのICT化の取り組みの一助とする。

3 参加者

委員	尾崎夏樹委員長、増田京子副委員長、岡沢聡委員、高橋竜馬委員、中井博幸委員、村川真実委員、
オブザーバー	中嶋三四郎議長、藤田貴支副議長

(1) 東京都町田市 (町田市議会)

項目	内容	備考
町田市について	<p>人口約43万人、面積約72km²</p> <p>古くは鎌倉街道沿いの宿場町として発展し、明治の開国後は生糸の産地・集積地であった八王子市と横浜港とを結ぶ「絹の道」の中継地として繁栄した。戦後は、東京のベッドタウンとして人口流入が続き、町田駅周辺は多摩地区有数の商業地を形成し「西の渋谷」と称される賑わいを見せている。</p>	<p>説明</p> <p>町田市議会議長</p>
1. 議案のカルテについて	<p>○開かれた市議会の取り組みの一つとして、平成23年3月定例会から「議案のカルテ」を作成し市議会のHPに掲載した。</p> <p>○導入の端緒は、市民の方向けに市議会の会議録の速報版を出せないかとの考えからで、当時は、市議会の議事録の公開が、議会終了後の2～3ヶ月も先であった。</p> <p>○カルテの内容として、まず、定例会ごとの議会に提出された議案の一覧表が掲載され、次に、個別のカルテにおいては、議案ごとに「議案番号」「提出日」「付託委員会」「委員会付託日」「委員会審査日」「審査結果」「本会議の議決結果」「議決年月日」「議案の概要」が表示されて、議案の審議状況や審議結果が一目で把握できるようになった。</p> <p>○導入の効果として、導入前は一つの議案の審議状況を把握するのに、日を跨いだ会議の結果を自分で探し出して結びつけねばならず職員でも難しかったが、導入後は審議の状況が一目で把握できるようになった。</p>	<p>説明</p> <p>議会事務局</p>
2. 市議会議員と高校生との意見交換会について	<p>○市民に開かれた議会の取り組みとしては、従前、小学生には議場見学、中学生には職場体験、大学生にはインターンシップの受け入れを行っていたが、高校生向けの取り組みがなかったところ、平成28年から投票年齢が18歳になり主権者教育も兼ねて高校生との意見交換会に取り組んだ。</p>	<p>説明</p> <p>議会事務局</p>

○これまでに平成29年から昨年の令和4年までの間に、合計5回、高校生との意見交換会を実施し、当日は、ワールドカフェ方式で開催し「町田をどう創る」「若者が過ごしやすいまち」などをテーマに、ざっくばらんに意見を出し合い、議論を深めた。

○参加した高校生の感想としては、意見交換会に参加して良かった、市議会に対する関心が向上した、という回答が多く、高校生に主権者として行政に関心を持ってもらうという効果が認められた。

○今後の課題としては、高校生からの意見を市政にどのように反映させるかという点、また、意見交換会をイベントとして広く周知すべき点などが挙げられた。

写真枠



所感

町田市の議会改革の取り組みは、平成11年の町田市議会の改革に関する調査特別委員会の設置から始まり、今日まで継続して改革を続けて来られていました。

まず、議案のカルテに関しては、平素、国会の審議などでも各議案の審議状況を知るには報道に頼ることが多い中、市議会のレベルでのこのような取り組みは俊逸で、市民にとっても議会を身近に感じ、議会の運営の状況が非常に分かり易いとの感想を持ちました。

次に、市議会議員と高校生との意見交換会に関しては、市議会においては、これから先の社会を担う若者たちの意見や考えを直に聴取し取り込むことができるという点で、また、参加する高校生においては、議員から話を聞くことにより、市政や社会の動きに関心を持つということで、非常に意義のある取り組みであると感じました。

(2) 千葉県柏市（柏市議会）

項目	内容	備考
柏市について	<p>人口約43万人、面積約115km²</p> <p>柏市は東京都心部や筑波研究学園都市、成田国際空港、千葉市の幕張新都心などから30キロ圏内に位置し、道路や鉄道の交通条件に恵まれた千葉県北西部の中核市である。同市は令和4年3月に国民栄誉賞を受賞した車椅子テニス選手の国枝慎吾さんの活動拠点や、プロサッカーJリーグディビジョン1の柏レイソルのホームタウンでもある。</p>	<p>説明 町田市議会議長</p>
1. 市議会の議場の大型スクリーンについて	<p>○本会議場の設備で、議長席の後方に150インチの大型スクリーンと、議場両サイドに65インチモニターが設置され、演壇上には書画カメラやパソコンが備えられている。</p> <p>○大型スクリーンやモニターの運用方法としては、パソコンや書画カメラを利用してスクリーンへの資料の投影を希望する議員や執行部は、質疑の前日正午までに申請書及び投影資料を議長に提出し、議長の許可を得たものを使用でき、資料は10枚以内、使用できるのは原則として1問目である。</p> <p>○導入の効果としては、質問や答弁の補足を資料投影で行え、議論が分かり易くなった、問題点を視覚的に捉えることで、より正確な認識ができるようになった、書画カメラでは立体物が投影できるようになった。</p> <p>○課題点として、掲示する資料は、あくまで質問の補足であるものが、資料や写真が主となりプレゼンが目的になりかねないことや、資料や写真を掲示して良いか否か議長の判断基準が難しいことである。</p>	<p>説明 議会事務局</p>
2. 採決システムについて	<p>○本会議場には押しボタン式投票システムが導入され、各議席には「賛成」と「反対」の押しボタンが設置されており、議案や請願の採決は基本的に全て押しボタン投票システムを使って行われている。</p>	<p>説明 議会事務局</p>

	○押しボタン式投票システムの導入により、個人の賛否の状況が、スクリーン上にリアルタイムで表示されるようになり、これにより本会議場にいる議員や執行部の他、本会議を傍聴している市民の方も、賛否の状況を視覚的に把握できるようになった。	
3. オンラインによる委員会の開催について	○令和4年2月に総務省通知でオンラインによる開催も可能との見解が示され、令和2年9月定例会で会議規則等を改正し、令和3年8月の議会運営委員会や令和4年3月の常任委員会をオンラインにより実施した。 ○感染症や大規模災害で参集が困難な場合も委員会が開催でき便利であった。課題として対面の委員とオンラインの委員とで温度差があることや、質疑の順も自然とオンラインの委員が後になるなど見受けられた。	説明 議会事務局

写真枠



所感

市議会の議場の大型スクリーンは大変便利なものであり、現在、箕面市では資料を手持ちのパネルで掲示しようとする、準備の作業に手間取り、出来上がってもパネルの大きさに自ずと限度があり、議場で周囲の者がほとんど視認できない等の課題が存するところ、大型スクリーンの導入により、これらの問題が一気に解決できると感じました。

採決システムも同様に、現在、箕面市では起立による採決が行われており本会議場にいる者はもとより本会議を傍聴している者も賛否の状況の把握に時間を要するところ、採決システムの導入とスクリーンへの表示で、賛否の状況が瞬時に把握できると感じました。

オンラインによる委員会の開催については、実際に開催した際の経験や課題など把握することができ、本市で実施する際にこの知見を活かせるものと感じました。